



ペンネーム	カム
<p>【エピソードのタイトル】</p> <p>来年も応援に行こうね</p>	
<p>【エピソードの内容】</p> <p>私は大阪在住の45歳です。私には中学2年生の娘がおります。娘は去年の夏中学校を不登校になってしまいました。理由は、友人関係に悩んで学校に行けなくなってしまったのです。何度か無理やり連れて行きました。悩んで下関に住む姉に相談したところ、「私、今年下関海響マラソンに出るから家族みんなで応援に来てよ」と言われました。久しく家族で旅行に行っていなかったため、妻と娘を連れて下関に行くことに決定しました。姉の住む下関を訪れるのは産まれて初めてだったのですが、私たちは大会の前日下関の町並みを楽しみました。底抜けに明るい姉は娘を何度も笑わせていましたが、中学校に関する話題になると、娘はたちまちにうつむいて黙り込んでしまいました。</p> <p>大会当日、姉の家から歩いて直ぐのところのマラソンのコースだったので、姉が来るまでドキドキしながら待っていました。姉の姿が見えたときよく見ると「〇〇(娘の名前)ちゃん頑張れ！」と書かれたTシャツを着ていたのです。娘は大きな声で姉に声援を送りました。私と妻も声援を送りました。</p> <p>大阪に帰る新幹線の中で娘は何度も「かっこよかったね」、「来年もきっと応援に来ようね」と興奮気味でした。下関に来て、娘は急に元気を貰ったように見えました。マラソンの翌月から中学校に復帰し、勉強も部活動も楽しんでいる娘を見る度にマラソンの力って凄いなと思ひ出すのです。</p> <p>今年は準備万端です。娘は姉の名前を書いたうちわを作って私に見せにきました。私は「ありがとう海響マラソン」と書いた旗を振りに行きます。</p>	